



GOOD DESIGN  
AWARD 2014

2014年10月1日  
一般社団法人大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会  
NPO法人大丸有エリアマネジメント協会  
千代田区  
三菱地所株式会社  
株式会社三菱地所設計

『丸の内仲通り』 2014年度グッドデザイン賞受賞  
公民の協力で、都心の道路に快適な交流空間「都市の居間」を創出

～ハード整備とエリアマネジメント活動が一体となった、日本を代表する質の高い街路空間として評価～

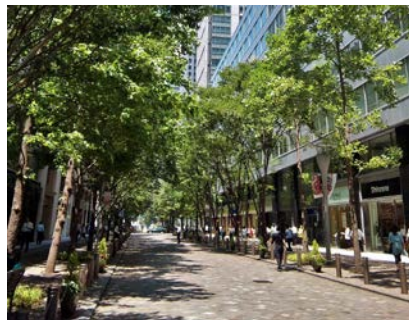
一般社団法人大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会、NPO法人大丸有エリアマネジメント協会（通称：リガーレ）、千代田区、三菱地所株式会社、株式会社三菱地所設計が中心となって整備した「丸の内仲通り」の街路空間・コミュニティづくりが、本日2014年度グッドデザイン賞（Gマーク）を受賞しましたのでお知らせします。

「丸の内仲通り」は、日本を代表するビジネス街である大手町・丸の内・有楽町地区（通称：<sup>だいまるゆう</sup>大丸有地区）の中心を貫く幅員21m、全長1.2kmにも及ぶ都心の街路空間です。アーバン・リビングルームというコンセプトのもと公民が協力し「通過する道路」を、回遊する憩いの場、イベントの舞台という「快適な交流空間」へと、歩道と車道を一体的に変えてきました。

1990年代以降、同地区のまちづくりは、東京都・千代田区・大丸有まちづくり協議会・JR東日本の4者で構成される「大丸有まちづくり懇談会」で公民合意された「まちづくりガイドライン」に沿って進められ、1998年発行当初より、丸の内仲通りはヒューマンスケールの憩いの空間や賑わい創出の場として重要な「アメニティ・賑わい軸」に位置付けられています。2002年の第1期竣工、2007年の第2期竣工、その後の更新に伴い、「人が中心の空間」へと進化し続けています。

道路という用途の固定観念を超えて「都市の居間」となった『丸の内仲通り』での公民協調の取り組みを今後更に進化させ、交流空間として一層活用していくことで、2020年にオリンピックを迎える東京の魅力あるまちづくりに貢献して参ります。

「丸の内仲通り」のグッドデザイン賞受賞は、ハード先行でなく、ストリートへの商業店舗誘致等ソフト先行で、都心部に新しい形の複合性・多様性導入をリードしたことが評価された2000年度受賞以来2度目となります。また、2013年には土木学会デザイン賞で最優秀賞を受賞しています。]



【グッドデザイン賞審査員の評価コメント】

東京のど真ん中にありながら歩行者に優しく、洗練された店舗と街路が織りなす国際的な爽やかで気持ちいい空間。その実現のために、大手町・丸の内・有楽町仲通り地区全体の協働と道路に面する複数民間地権者、公道を管理する千代田区の様々な合意協力で安全で魅力的な街路空間を実現している。さらに年間を通じ魅力的なイベントも継続して行っている。ハード整備とエリアマネジメントの活動が一体となって初めて生まれた、日本を代表する質の高い街路空間のお手本である。

＜本件に関するお問い合わせ先＞ 三菱地所株式会社 広報部 TEL 03-3287-5200  
大丸有まちづくり協議会 TEL 03-3287-6181

## 【参考資料】

### <「丸の内仲通り」の概要と3つのデザイン>

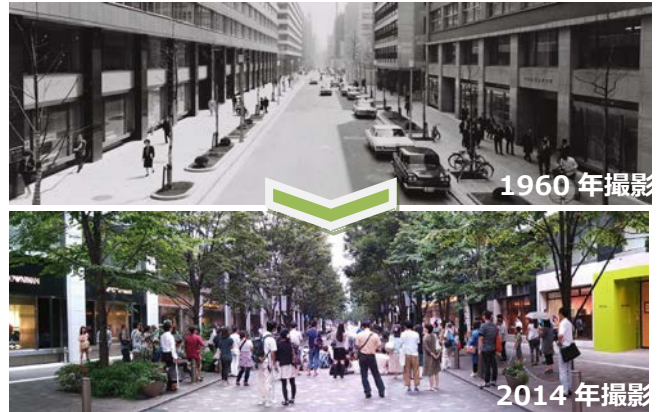
「人が中心の空間」へ改変するため2002年より順次整備を進め、ビルと路面による空間基本構成を保ちつつ、車道幅員を9mから7mに狭め、歩行者空間は両側に1mずつ拡大して7mを確保。自然石（アルゼンチン斑岩）による共通の仕上げで、区有地・民地の境界にこだわらない一体的な整備を行いました。

規模：幅員21m（歩道：車道：歩道＝7m：7m：7m）、全長1.2km

所有者：千代田区所有幅員9m（車道部分7m及び両側歩道部分1mずつ）

沿道地権者所有幅員12m（両側歩道部分6mずつ）

更に、緑豊かな並木道の整備、サイン・照明等を充実、ソフト面では店舗の連続配置、秩序ある広告物掲出を行い、イベント開催等の活動は15年以上継続しています。



### 1. 設えのデザイン — 足し算・引き算が生み出す新しい通り —

都市の居間に必要な設えを足しながら、歩道と車道の境界線や不要なデザインを引き、不要な要素を排除。

- ✦ [アート]1970年代から継続してストリートギャラリー（彫刻展示）を実施。街を歩く人々の目を楽しませます。
- ✦ [境界]歩道のみならず車道の舗装材には自然石(アルゼンチン斑岩)を用い、街路全体が一体となった質感と色彩を実現。スリット側溝の採用により、歩車道の段差は極力減らし、安全対策として、街になじむ素材感をもったボラードを設置。



### 2. 街並みのデザイン — 通りと建物に包まれる心地よい都市空間 —

丸の内仲通りの幅員21mは、対岸を歩く人の顔や店舗の様子が認識できる程好い距離。31mの街並みを残すことによって、幅員21m：建物31mが約1:1.5の比率のスケール感を維持。

通りに面する建物の低層部には店舗を連続的に配置し、建物と通りの活動が、断裂せずに一体となって共鳴する空間を創出。



### 3. 都市生活のデザイン — 働く人・訪れる人が紡ぎ出すシーン —

丸の内仲通りを舞台としたエリアマネジメント活動が展開され、継続的にデザインを守るための仕組みづくりを実施。沿道地権者は建物更新と合わせて路面店の改修、オープンカフェの実施、仲通りにつながるアトリウム空間や歩行者ネットワーク整備等に取り組んでいます。今後は大手町エリアへ機能延伸と共に、東京の活性化の中心軸としての役割を永く担い続けていきます。







### <地域コミュニティの場としての「丸の内仲通り」>

大手町・丸の内・有楽町地区には、約4千社の企業集積、約23万人の就業者、公民協力による施策実現体制、街の組織的活動を支える複数の街づくり団体が存在し、これらが街の活動に多彩に参画連携していることが特徴となっています。中でも地域活動の中心組織であるNPO法人大丸有エリアマネジメント協会が、丸の内仲通りという都市空間を舞台に様々な活動を実践していることに特色があります。「ストリートギャラリー（屋外彫刻展示）」「地域参加のお祭り」「光のイルミネーションイベント」「日比谷公園と連携したガーデニングショーとコンテスト」「夏の打ち水イベント」「演出効果の高いバナーフラッグによる広報事業」など多岐に亘る取り組みが公民連携により実現しています。そして、これらの成果は街づくり団体のコーディネートにより、街のハード（街路灯へのバナーやハンギングフラワーの設置、イベント用電源の装備等）とソフト（エリアマネジメント運営の仕組み、地元企業の支援、就業者の参加等）が両輪となって、初めて実施に至ります。

また、多彩な店舗で賑わう「丸の内仲通り」は、世界有数の商業ストリートとも連携しています。2009年にニューヨークの「マディソン・アヴェニュー」と、2011年にはロンドンの「ボンドストリート」とパートナーシップ協定を締結し、各々の商店会との間で文化交流や情報交換、プロモーションが進められています。